



第1問 中学校学習指導要領（平成29年3月告示）の「第2章 第2節 社会」について、次の1～5の問いに答えなさい。

- 1 次の文は、「第2 各分野の目標及び内容」のうち、地理的分野、歴史的分野、公民的分野、それぞれの「1 目標 (3)」である。文中の（ I ）～（ V ）に該当する語句の組み合わせとして正しいものを、下のa～dから一つ選びなさい。なお、空欄のローマ数字が同じ箇所には同じ語句が入るものとする。

ア

〔地理的分野〕

1 目標

- (3) 日本や世界の地域に関わる諸事象について、（ I ）の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な（ II ）を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深める。

〔歴史的分野〕

1 目標

- (3) 歴史に関わる諸事象について、（ I ）の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の歴史に対する愛情、国民としての自覚、国家及び社会並びに文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深め、（ III ）の精神を養う。

〔公民的分野〕

1 目標

- (3) 現代の社会的事象について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、（ IV ）を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が（ V ）し合うことの大切さについての自覚などを深める。

	I	II	III	IV	V
a	国際平和	生活文化	国際理解	国民主権	協働
b	よりよい社会	生活習慣	国際協調	基本的人権	協働
c	国際平和	生活習慣	国際理解	基本的人権	協力
d	よりよい社会	生活文化	国際協調	国民主権	協力

- 2 次の文は、「第2 各分野の目標及び内容」のうち、地理的分野「2 内容 B」及び「3 内容の取扱い」の一部である。文中の（ I ）～（ V ）に該当する語句の組み合わせとして正しいものを、下のa～dから一つ選びなさい。なお、空欄のローマ数字が同じ箇所には同じ語句が入るものとする。 イ

2 内容

B 世界の様々な地域

(2) 世界の諸地域

次の①から⑥までの各州を取り上げ、（ I ）や地域などに着目して、（ II ）を設けて課題を追究したり解決したりする活動を通して、以下のア及びイの事項を身に付けることができるよう指導する。

- ① アジア ② ヨーロッパ ③ アフリカ
④ 北アメリカ ⑤ 南アメリカ ⑥ オセアニア

ア 次のような知識を身に付けること。

(7) 世界各地で顕在化している地球的課題は、それが見られる地域の（ III ）の影響を受けて、（ IV ）が異なることを理解すること。

(イ) ①から⑥までの世界の各州に暮らす人々の生活を基に、各州の（ III ）を（ V ）し理解すること。

3 内容の取扱い

(4) 内容のBについては、次のとおり取り扱うものとする。

イ (2) については、次のとおり取り扱うものとする。

(7) 州ごとに設ける（ II ）については、各州に暮らす人々の生活の様子を的確に把握できる事象を取り上げるとともに、そこで特徴的に見られる地球的課題と関連付けて取り上げること。

	I	II	III	IV	V
a	経済的相互依存作用	主題	地域的課題	現れ方	明らかに
b	空間的相互依存作用	主題	地域的特色	現れ方	大観
c	空間的相互依存作用	ねらい	地域的課題	状況	明らかに
d	経済的相互依存作用	ねらい	地域的特色	状況	大観

- 3 次の文は、「第2 各分野の目標及び内容」のうち、歴史的分野「2 内容 C」及び「3 内容の取扱い」の一部である。文中の（ I ）～（ V ）に該当する語句の組み合わせとして正しいものを、下の a～d から一つ選びなさい。 ウ

2 内容

C 近現代の日本と世界

(1) 近代の日本と世界

(イ) 明治維新と近代国家の形成

開国とその影響、富国強兵・殖産興業政策、文明開化の風潮などを基に、明治維新によって近代国家の基礎が整えられて、（ I ）が大きく変化したことを理解すること。

(ウ) 議会政治の始まりと国際社会との関わり

自由民権運動、大日本帝国憲法の制定、日清・日露戦争、条約改正などを基に、立憲制の国家が成立して議会政治が始まるとともに、我が国の（ II ）が向上したことを理解すること。

3 内容の取扱い

(1) 内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。

ア 生徒の（ III ）の段階を考慮して、各時代の特色や時代の転換に係る基礎的・基本的な歴史に関わる事象を重点的に選んで指導内容を構成すること。

(4) 内容のCについては、次のとおり取り扱うものとする。

(1) のアの (ウ) の「日清・日露戦争」については、この頃の（ IV ）を踏まえて取り扱うようにすること。「条約改正」については、当時の国内の社会状況や国際情勢との関わりを踏まえて、欧米諸国と対等な外交関係を樹立する過程の中から代表的な事例を取り上げるようにすること。「立憲制の国家が成立して議会政治が始まる」については、その歴史上の意義や（ V ）とのつながりに気付かせるようにすること。

	I	II	III	IV	V
a	人々の生活	国際的な地位	発達	大陸との関係	現代の政治
b	政治の体制	国力	学習	大陸との関係	過去の政治
c	政治の体制	国際的な地位	発達	政治状況	過去の政治
d	人々の生活	国力	学習	政治状況	現代の政治

- 4 次の文は、「第2 各分野の目標及び内容」のうち、公民的分野「2 内容 C」及び「3 内容の取扱い」の一部である。文中の（ I ）～（ V ）に該当する語句の組み合わせとして正しいものを、下のa～dから一つ選びなさい。 工

2 内容

C 私たちと政治

(2) 民主政治と政治参加

対立と合意，効率と公正，個人の尊重と法の支配，民主主義などに着目して，課題を追究したり解決したりする活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識を身に付けること。

(ウ) 国民の権利を守り，社会の秩序を維持するために，法に基づく公正な裁判の保障があることについて理解すること。

イ 地方自治や我が国の民主政治の発展に寄与しようとする自覚や住民としての（ I ）の基礎を育成することに向けて，次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。

(ア) 民主政治の推進と，公正な（ II ）や選挙など国民の政治参加との関連について多面的・多角的に考察，構想し，表現すること。

3 内容の取扱い

(1) 内容の取扱いについては，次の事項に配慮するものとする。

エ（ III ）や社会参画を視野に入れながら，取り上げた課題について構想したことを，妥当性や効果，（ IV ）などを踏まえて表現できるよう指導すること。

(4) 内容のCについては，次のとおり取り扱うものとする。

ア（2）のアの（ウ）の「法に基づく公正な裁判の保障」に関連させて，（ V ）についても触れること。

	I	II	III	IV	V
a	自治意識	負担のあり方	合意形成	実行可能性	取調の可視化
b	責任感	世論の形成	社会形成	実行可能性	裁判員制度
c	自治意識	世論の形成	合意形成	実現可能性	裁判員制度
d	責任感	負担のあり方	社会形成	実現可能性	取調の可視化

5 次の文は、「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」の一部である。文中の（ I ）～（ V ）に該当する語句の組み合わせとして正しいものを、下の a～d から一つ選びなさい。 オ

1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

(1) 単元など内容や時間のまとまりを（ I ）て、その中で育む（ II ）の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、分野の特質に応じた（ III ）を働かせ、社会的事象の意味や意義などを考察し、概念などに関する知識を獲得したり、社会との関わりを意識した課題を追究したり解決したりする活動の充実を図ること。

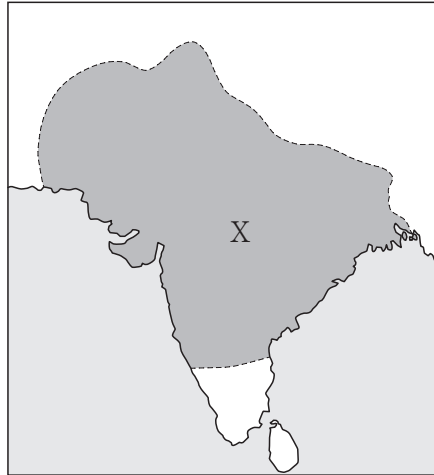
2 第2の内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。

(4) 社会的事象については、生徒の（ IV ）が深まるよう様々な見解を提示するよう配慮し、多様な見解のある事柄、未確定な事柄を取り上げる場合には、有益適切な教材に基づいて指導するとともに、特定の事柄を強調し過ぎたり、一面的な見解を十分な配慮なく取り上げたりするなどの偏った取扱いにより、生徒が多面的・多角的に考察したり、事実を（ V ）に捉え、公正に判断したりすることを妨げることをのまないよう留意すること。

	I	II	III	IV	V
a	見通し	資質・能力	見方・考え方	考え	客観的
b	計画し	知識・技能	思考・判断	考え	具体的
c	計画し	資質・能力	見方・考え方	理解	具体的
d	見通し	知識・技能	思考・判断	理解	客観的

第2問 次の1～7の問いに答えなさい。

- 1 次の地図に示した領域Xを支配した古代インドの統一王朝の名称と、その説明の組み合わせとして正しいものを、下のa～dから一つ選びなさい。



- a クシャーナ朝 - カニシカ王が第4回仏典結集を行った。
- b ヴァルダナ朝 - ナーランダー僧院を唐の僧玄奘が訪れた。
- c グプタ朝 - 首都プルシャプラを東晋の僧法顕が訪れた。
- d マウリヤ朝 - 上座部仏教をセイロン島へ布教した。

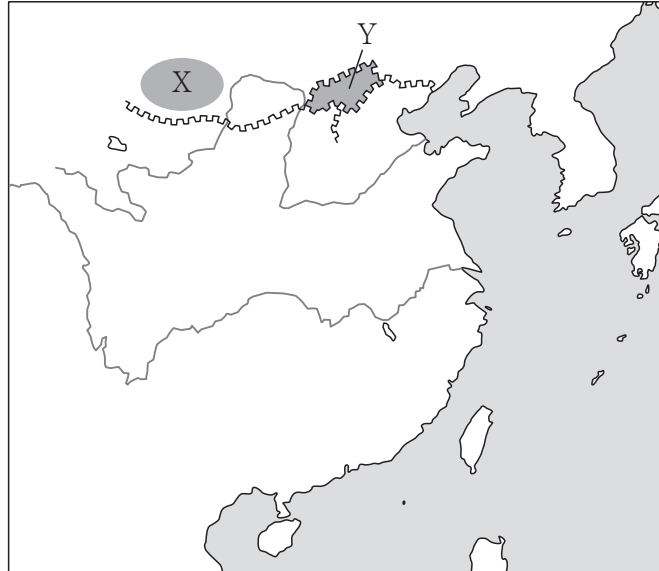
2 次の地図は、10世紀後半のイスラーム世界の一部を示したものである。地図中のXおよびYの王朝に関する説明として正しいものを、下のa～dから一つ選びなさい。

イ



- a Xは第3回十字軍を撃退したスンナ派王朝であり、Yは大アミールの称号を受けたシーア派王朝である。
- b Xはカリフを称してアズハル学院を設立したシーア派王朝であり、Yはイクター制を創始したシーア派王朝である。
- c Xは新首都カイロを建設した最初のシーア派王朝であり、Yはバグダード入城を果たしてスルタンの称号を受けたスンナ派王朝である。
- d Xはニザーミーヤ学院を設立したスンナ派王朝であり、Yはチンギス=ハーンに滅ぼされたイラン系のスンナ派王朝である。

- 3 次の地図は、10世紀の東アジアの一部を示したものである。燕雲十六州の位置（XまたはY）と、後晋の建国を助けてこの地を獲得した民族との組み合わせとして正しいものを、下のa～dから一つ選びなさい。



- a 位置－X 民族－契丹
 b 位置－X 民族－女真
 c 位置－Y 民族－契丹
 d 位置－Y 民族－女真
- 4 アジア・アフリカにおける宗教や思想の歴史について述べた文として正しいものを、次のa～dから一つ選びなさい。

- a 東南アジアでは、ヒンドゥー国家であるマジャパヒト王国や、イスラーム国家であるマラッカ王国が栄えた。
 b 南宋の儒学者たちの間に清談が流行し、「竹林の七賢」と呼ばれる者たちが現れた。
 c 北魏の孝文帝による漢化政策のもと、寇謙之が道教を確立した。
 d ナイル川流域に栄えたクシュ王国や阿克苏ム王国では、スーフィズムが民間信仰として広まった。

5 三十年戦争について述べた文として正しいものを，次の a～d から一つ選びなさい。

オ

- a ウェストファリア条約の結果，オランダとベルギーの独立が正式に認められた。
- b フランス，デンマーク，スウェーデンは，ともに新教側に立って参戦した。
- c イギリスのエリザベス 1 世は，カルヴァン派の勢力拡大を嫌って旧教側に立ち参戦した。
- d 神聖ローマ帝国では，皇帝に反発したルター派諸侯らがシュマルカルデン同盟を結成した。

6 次の文中の および に適する語句の組み合わせとして正しいものを，下の a～d から一つ選びなさい。

「ムガル帝国のアウラングゼーブ帝は，ジズヤを ため 教徒らの抵抗を招いた。」

- a X－廃止した Y－イスラーム
- b X－廃止した Y－シク
- c X－復活させた Y－イスラーム
- d X－復活させた Y－シク

7 次のグラフは、元朝の中国支配体制である「モンゴル人第一主義」の構造を人口比率によって表したものである。図中のYに該当する人々の呼称と、その説明の組み合わせとして正しいものを、下のa～dから一つ選びなさい。

- a 漢人 - 南宋の支配下にあった人々をさす呼称である。
- b 漢人 - 金の支配下にあった人々をさす呼称である。
- c 色目人 - 奴隸として支配された、中央・西アジア出身の人々をさす呼称である。
- d 色目人 - 財務官僚として重用された、中央・西アジア出身の人々をさす呼称である。

第3問 次の1～7の問いに答えなさい。

- 1 大宝律令に基づく行政組織について述べた文XとYの正誤の組み合わせとして正しいものを、下のa～dから一つ選びなさい。

X 神々の祭祀をつかさどる神祇官と行政全般を管轄する太政官の二官があり、太政官のもとで八省が政務を分担した。

Y 全国が畿内・七道に行政区分され、国・郡・里がおかれ、国司・郡司・里長が任じられた。

- a X－正 Y－正 b X－正 Y－誤
c X－誤 Y－正 d X－誤 Y－誤

- 2 710年に平城京に都を移した天皇として正しいものを、次のa～dから一つ選びなさい。

- a 桓武天皇 b 元明天皇 c 元正天皇 d 光仁天皇

- 3 平安時代に大宰府管内に設けられた国家の直営田として正しいものを、次のa～dから一つ選びなさい。

- a 公営田 b 勅旨田 c 諸司田 d 官田

- 4 源頼朝に招かれて、公文所（政所）の初代別当となった人物として正しいものを、次のa～dから一つ選びなさい。

- a 和田義盛 b 三浦義澄 c 大江広元 d 三善康信

- 5 室町時代に朝鮮が倭寇の本拠地とみなした対馬を襲撃したできごととして正しいものを、次のa～dから一つ選びなさい。

- a 寧波の乱 b 応永の外寇 c 三浦の乱 d 永享の乱

6 江戸時代に起こった一揆について述べた文として誤っているものを，次のa～dから一つ選びなさい。

- a 南山城地方で争っていた畠山政長・義就の両軍を国外に退去させた。
- b 甲斐郡内地方で極度に困窮した百姓が，世直しを要求した。
- c 信濃松本藩の農民が起こした一揆の結果，中萱村多田嘉助らが磔となった。
- d 武蔵国一帯で，物価高騰などが原因による武州一揆が起こった。

7 田沼意次の行った政策について述べた文XとYの正誤の組み合わせとして正しいものを，下のa～dから一つ選びなさい。

X 都市や農村の商人・職人の仲間を株仲間として広く公認し，運上や冥加などの営業税の増収をめざした。

Y 仙台藩の医師工藤平助の意見を取り入れ，間宮林蔵らを蝦夷地に派遣して，その開発やロシア人との交易の可能性を調査させた。

- a X - 正 Y - 正 b X - 正 Y - 誤
- c X - 誤 Y - 正 d X - 誤 Y - 誤

第4問 次の1～7の問いに答えなさい。

1 日本時間1月12日午前6時のとき、現地時間が1月11日午後4時である都市を、次のa～dから一つ選びなさい。

- a ニューヨーク
- b ヴァンクーヴァー
- c パリ
- d カイロ

2 次の地図中のAの海流を、下のa～dから一つ選びなさい。



- a カナリア海流
- b フォークランド海流
- c ペルー海流
- d ベンゲラ海流

- 3 次の文は、ある土壌について述べたものである。この土壌として正しいものを、下の a～d から一つ選びなさい。

「黒色の土で綿花土ともよばれる。保水力が大きいので農業に適している。この土壌の広がるデカン高原は、綿花の生産地として知られている。」

- a テラロッサ
- b テラローシャ
- c レグール
- d レス

- 4 次の図は、2016年におけるアメリカ合衆国、韓国、スウェーデン、ドイツの政府開発援助（ODA）実績額と、それに対する国民総所得（GNI）比を示したものである。ドイツを示したものとして正しいものを、図中の a～d から一つ選びなさい。

- 5 次の図は、インド洋周辺のプレートの分布を示したものである。図中の二重線で示されたプレートの境界の説明として正しいものを、下のa～dから一つ選びなさい。

オ



- a ずれる境界
 b 狭まる境界
 c 未確定の境界
 d 広がる境界
- 6 日本の気候や気象災害について述べた文として最も適切なものを、次のa～dから一つ選びなさい。 カ

- a 冬季には北海道から東北地方の太平洋側で、やませとよばれる冷たく湿った風が豪雪をもたらす。
 b 春から夏にかけて、太平洋側ではフェーン現象によって高温の南風が吹き、山では雪崩が発生することもある。
 c 初夏には揚子江気団と赤道気団の間に梅雨前線が形成され、熱帯並みの蒸し暑さとなる。
 d 初秋には小笠原気団の南下に伴い、前線帯が日本上空をゆっくり南下し、秋の長雨をもたらす。

7 次のグラフは、2014年における世界の地熱発電量総計に占める国別の地熱発電量割合を示したものである。このグラフの に該当する国を、下の a～d から一つ選びなさい。

- a イタリア b トルコ c 日本 d フィリピン

第5問 次の1～5の問いに答えなさい。

1 次の(1)・(2)の問いに答えなさい。

(1) ソクラテスの思想の説明として最も適切なものを、次のa～dから一つ選びなさい。

- a 魂を、アイデアを認識する理性、肉体にかかわる欲望、それらの中間にあって意志の働きをなす気概の三つの部分にわけてとらえた。
- b 人間は自然全体の一部として、自然によって理性が与えられていると考え、「自然にしたがって生きる」ことが人生の目的であると主張した。
- c 人々の現実の行動や生き方をふまえながら、徳について体系的な考察を加え、それを勇氣・節制・正義などの習性的徳と知恵・思慮などの知性的徳にわけた。
- d 人が善や正を知れば、それを知る魂そのものがよくなって魂のすぐれたあり方である徳が実現し、よいおこないや正しいおこないを実行すると考えた。

- (2) 次のグラフから読み取れる現代の家族に関する記述A・Bについて、その正・誤の組み合わせとして適切なものを、下のa～dから一つ選びなさい。

A 世帯構造別の構成割合の推移を見ると、三世代世帯の割合が減少する一方で、夫婦のみ世帯の割合は増加しており、2016年では、単独世帯と夫婦のみ世帯の割合を合わせると5割を超える状況になっている。

B 共働き世帯数と男性雇用者と無業の妻からなる世帯数の推移を見ると、1980年代には、共働き世帯が男性雇用者と無業の妻からなる世帯を上回っているが、2002年以降は、男性雇用者と無業の妻からなる世帯が共働き世帯を上回っている。

- | | | | | | |
|---|-------|-------|---|-------|-------|
| a | A - 正 | B - 正 | b | A - 正 | B - 誤 |
| c | A - 誤 | B - 正 | d | A - 誤 | B - 誤 |

2 次の(1)・(2)の問いに答えなさい。

(1) 王陽明の思想に関する記述として最も適切なものを、次のa～dから一つ選びなさい。

- a 人間の本性は欲望であるから、自然のままにしておけば必ず争いにいたると考え、規範としての礼によってその性質を人為的に矯正すべきであると説いた。
- b 具体的な事物に対して正しく応接していくことで、良知は磨かれ、実現してゆくと説き、良知は、行為によって実現するのであり、知ることと日常の実践とはひとつのものであるとした。
- c 利他心の欠如が社会の混乱の原因であるとして、他者を区別なく愛する兼愛のもとに、人々がたがいに利益をもたらし合う博愛平等の社会をめざした。
- d 人間は本来理と一体のものであるが、現実の人間は、物質的な気に妨げられた状態にあり、完全な善をなすことができないと考え、つつしみによって人欲を捨て、万物にやどる理を窮め、努力して天との一致を回復することが理想の道であると説いた。

(2) 新渡戸稲造の著作の一部として適切なものを、次のa～dから一つ選びなさい。

- a 天は人の上に人を造らず人の下に人を造らずといえり。されば天より人を生ずるには、万人は万人皆同じ位にして、生まれながら貴賤上下の差別なく、万物の靈たる身と心との働きをもって天地の間にあるよろずの物を資り、もって衣食住の用を達し、自由自在、互いに人の妨げをなさずしておのおの安楽にこの世を渡らしめたもうの趣意なり。
- b 国の事は民の事とは別の事ではござらぬぞ。畢竟国は民のあつまるもの、政府は国の政事を司るもの、政事は人民の事にして人民の事が政じゃ。故に国安全なれば民も亦安楽に、国危うければ民は命も保ち難し。政府善良なれば民幸福を得、政府暴虐なれば民不幸を蒙る。
- c ふつう民権とよばれているものにも、二種類あります。イギリスやフランスの民権は、回復の民権です。下からすすんで取ったものです。ところがまた、別に恩賜の民権とでも言うべきものがあります。上から恵み与えられるものです。
- d 人の人たる道は、その友とともに暮らし、社会にあつて活動し、同胞を助け、また助けられることにあると思う。塵の世にありながら、心まで汚されず、泥水に浮かびながらもなお身を清く保ち、ひいては自分の周囲にある泥水をも清め、自分の周囲を取り巻く塵を払うのが、人の人たる道だと思ふ。

3 次の(1)・(2)の問いに答えなさい。

(1) エラスムスについての人物や著作に関する記述として適切なものを、次のa～dから一つ選びなさい。

- a 『愚神礼讃』のなかで、当時の形骸化した教会や墮落した聖職者の姿を痛烈に批判し、宗教改革への橋渡しをした。
- b 『君主論』において、宗教や道徳の権威によらず、強力な権力と知謀を行使して、統一国家を樹立する君主のあり方を提示した。
- c 『人間の尊厳について』という演説草稿の中で、自由意志によって自分の存在のあり方を決定できる点にこそ、人間の尊厳の根拠があることを強調した。
- d 同時代のイギリス社会の矛盾を批判し、『ユートピア』において、私有財産制を否定した理想社会のあり方を示した。

(2) ロックの著作の一節として適切なものを、次のa～dから一つ選びなさい。

- a 人々が外敵の侵入から、あるいは相互の権利侵害から身を守り、そしてみずからの労働と大地から得る収穫によって、自分自身を養い、快適な生活を送ってゆくことを可能にするのは、この公共的な権力である。この権力を確立する唯一の道は、すべての人の意志を多数決によって一つの意志に結集できるよう、一個人あるいは合議体に、かれらの持つあらゆる力と強さを譲り渡してしまうことである。
- b 彼の身体の労働と手の働きとは、彼に固有のものであると言ってよい。従って、自然が供給し、自然が残しておいたものから彼が取りだすものは何であれ、彼はそれに自分の労働を混合し、それに彼自身のものである何ものかを加えたのであって、そのことにより、それを彼自身の所有物とするのである。
- c 「どうすれば共同の力のすべてをもって、それぞれの成員の人格と財産を守り、保護できる結合の形式をみいだすことができるだろうか。この結合において、各人はすべての人々と結びつきながら、しかも自分にしか服従せず、それ以前と同じように自由でありつづけることができなければならない。」これが根本的な問題であり、これを解決するのが社会契約である。
- d もし叡智が我々に共通なものならば、我々を理性的動物となすところの理性もまた共通なものである。であるならば、我々になすべきこと、なしてはならぬことを命令する理性もまた共通である。であるならば、法律もまた共通である。であるならば、我々は同市民である。

4 次の(1)・(2)の問いに答えなさい。

(1) 経済的自由権に関する記述として最も適切なものを、次のa～dから一つ選びなさい。

- a 日本国憲法では、職業選択の自由とともに、選択した職業を自由に営むことを保障する営業の自由が明文で定められている。
- b 日本国憲法では、人が住みたいところに住み、希望するところに移転する自由は明文で定められていない。
- c 日本国憲法では、私有財産は、正当な補償をすることを条件に、公共のために用いられうることが明文で定められている。
- d 日本国憲法では、経済的自由権を保障する規定に、「公共の福祉」の範囲内という明文の制限はつけられていない。

(2) 次の表は、ある議会の選挙で三つの政党A～Cが五つの選挙区I～Vでそれぞれ1人の候補者を立てたときの、各候補者の得票数を示したものである。この議会では、議員は、各選挙区で最も多くの票を獲得した候補者が選出され、定員は5人であるとする。この選挙ではA～Cの三つの政党以外からの立候補者がいないものとしたとき、この選挙結果についての記述として最も適切なものを、下のa～dから一つ選びなさい。

	A党	B党	C党
I	50	20	30
II	15	55	40
III	45	30	35
IV	40	30	25
V	10	40	35
計	160	175	165

- a 過半数の議席を獲得できる政党はない。
- b 一つの議席も獲得できない政党がある。
- c 獲得議席数が最も多いのは、得票数の合計が最も多い政党である。
- d 獲得議席数が最も少ないのは、得票数の合計が最も少ない政党である。

5 国の経済規模を示す指標の一つである国富を構成するものとして誤っているものを、次の a～d から一つ選びなさい。

- a あるNPO（非営利組織）が所有している建物。
- b ある民間企業がもっている国内債権。
- c ある世帯がもっている建物。
- d ある地方自治体が所有している森林。

第6問

- 1 次の文は、平成30年2月2日 心のバリアフリー学習推進会議より報告された「学校における交流及び共同学習の推進について～「心のバリアフリー」の実現に向けて～」の一部である。文中の ～ に該当する語句を、それぞれ下の a～d から一つ選びなさい。

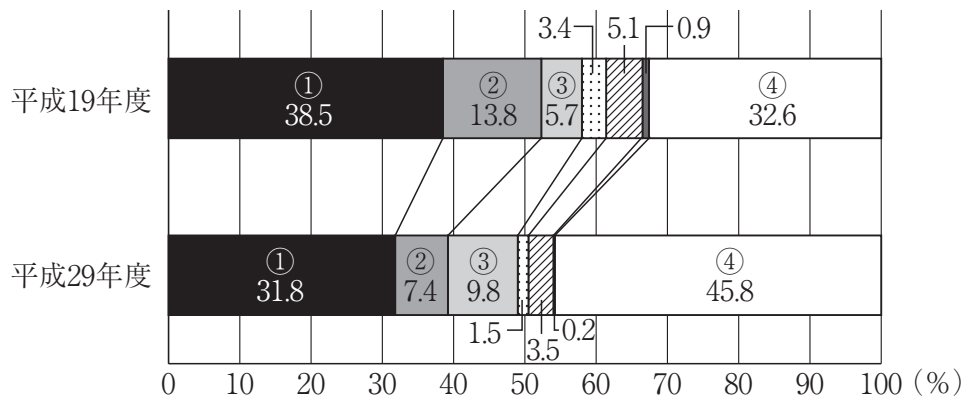
(1) 交流及び共同学習に関する基本的な考え方

- 幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校及び中等教育学校（以下「小・中学校等」という。）並びに特別支援学校が行う、障害のある児童生徒等と障害のない児童生徒等の交流及び共同学習は、障害のある児童生徒等にとっても、障害のない児童生徒等にとっても、経験を深め、社会性を養い、豊かな人間性を育むとともに、お互いを し合う大切さを学ぶ機会となるなど、大きな意義を有する。
- このような交流及び共同学習は、学校卒業後においても、障害のある児童生徒等にとっては、様々な人々と共に助け合い支え合って生きていく力となり、積極的な につながるとともに、障害のない児童生徒等にとっては、障害のある人に自然に言葉をかけて手助けをしたり、障害のある人に対する支援を行う場に積極的に参加したりする行動や、人々の を理解し、障害のある人と共に支え合う意識の醸成につながり、さらに、児童生徒等の成長を通じてその の意識の向上も促すなど、社会における「心のバリアフリー」の実現に資するものである。

<input type="text" value="ア"/>	a 理解	b 尊重	c 尊敬	d 注目
<input type="text" value="イ"/>	a コミュニケーション	b 就労	c 社会参加	
	d 生活態度			
<input type="text" value="ウ"/>	a 多様な在り方	b 障害特性	c 長所短所	
	d 基本的人権			
<input type="text" value="エ"/>	a 支援者	b 保護者	c 教職員	
	d 関係者			

2 次のグラフは「平成29年度 高知県の特別支援教育資料」の「5 年度別特別支援学級数」をもとに、平成19年度と平成29年度の障害種別の設置状況割合を示したものである。①～④に該当する障害種について適切な組み合わせを、下のa～dから一つ選びなさい。

オ



- a ① 自閉症・情緒障害 ② 肢体不自由 ③ 病弱・身体虚弱
④ 知的障害
- b ① 知的障害 ② 肢体不自由 ③ 病弱・身体虚弱
④ 自閉症・情緒障害
- c ① 自閉症・情緒障害 ② 肢体不自由 ③ 病弱・身体虚弱
④ 聴覚障害
- d ① 聴覚障害 ② 肢体不自由 ③ 病弱・身体虚弱
④ 知的障害

- 3 次の文は、文部科学省の「学校教育法施行規則の一部を改正する省令等の公布について（通知）（平成28年12月9日）」の「Ⅲ 留意事項 第1 高等学校における通級による指導の制度化関係 2 実施形態について」の一部である。文中の（ア）～（ウ）に該当する障害種について適切な組み合わせを、下のa～dから一つ選びなさい。

カ

通級による指導の実態形態としては、①生徒が在学する学校において指導を受ける「（ア）」、②他の学校に週に何単位時間か定期的に通級し、指導を受ける「（イ）」、③通級による指導の担当教員が該当する生徒がいる学校に赴き、又は複数の学校を巡回して指導を行う「（ウ）」が考えられる。実施に当たっては、対象になる生徒の人数と指導の教育的効果との関係性、生徒や保護者にとっての心理的な抵抗感・通学の負担・学校との相談の利便性、通級による指導の担当教員と通常の授業の担任教員との連絡調整の利便性等を総合的に勘案し、各学校や地域の実態を踏まえて効果的な形態を選択すること。

- | | | |
|------------|--------|--------|
| a ア 自校学習 | イ 他校学習 | ウ 巡回相談 |
| b ア 自校通級 | イ 他校通級 | ウ 巡回指導 |
| c ア 個別学習 | イ 定期通級 | ウ 巡回学習 |
| d ア 特別支援学級 | イ 他校通級 | ウ 巡回相談 |

